第160回森で遊ぶ会（安倍川沿いのサクラ）
実施報告

実施日：　平成31年4月1日
実施場所：　安倍川沿いのサクラや巨木を訪ねて回った
参加者：　25名(女性24名、男性1名)
担当幹事：　中川、小嶋
アシスト会員：　青野、内野、越智、小久保、杉山、高橋

行程と内容：

JR 静岡駅前を大型バスにて9時30分に出発し、安西橋を経由して安倍川右岸を北進した。

車窓より左側山の斜面のヤマザクラを観賞しながら、今回の第一番目の観察地である、足久保は八十岡のエドヒガンとソメイヨシノの巨木の観賞に向かった。ここのサクラは、枝を四方に広げ、樹勢盛んな巨木である。早速、森林インストラクターのメンバーがエドヒガンとソメイヨシノの花の形態の違いを解説した。月曜日の為、我々以外の鑑賞者はまばらであった。木の下には芝桜の花が赤、ピンク、白と一面に広がっていた。ビオラの紫色も鮮やかであった。

さらに車を進めていくと、両側の山に見られるヤマザクラが点在し、車窓より観賞しながら行った。「真富士の里」でトイレ休憩をとった。参加者の中には、早くも買い物に走る人がいた。

八十岡の枝垂れ桜

次の目的地は、中平の枝垂れ桜と白髭神社のスギ、ヒノキ、フジの巨木であるが、その途中の遠くの山々にもサクラが散見出来て、参加者からは「吉野山みたい」という声が上がった。中平の枝垂れ桜はエドヒガンであり、人家から離れたところにポツンとあった。下草にはスミレ、ジロボウエンゴサク、ホトケノザなどが散見出来た。白髭神社では、樹皮によるスギ、ヒノキの違いなども観察した。

次の上渡の枝垂れ桜は、駐車場所がないので車窓からの観賞となったが、かなり赤の濃いピンク色だった。

中平のエドヒガン

数珠ヶ窪トンネル手前の入島の枝垂れ桜は圧巻であった。見事に広げた枝ぶりと樹勢盛んな巨樹であり、さらに、この桜のピンク色に際立つように真っ赤なトウツバキの花も対照的だった。屋敷外の雲南黄梅やレンギョウの黄色も印象的だった。サクラではないがこれらの花について解説したり、道端にあったホテイチクについて、その特徴について説明したりもした。

入島の枝垂れ桜は圧巻だった

入島の枝垂れ桜とトウツバキの競演

雲南黄梅を説明する

この時点ですでに11時半ごろだったので、桜の園、新田の枝垂れ桜は食事の後に回ることとして、黄金の湯にてフサザクラ、アブラチャン、キブシの花を観察した後、昼食を取った。

食事の後、新田の枝垂れ桜に向かった。道が狭いので、安倍街道にバスを止めて10分ほど歩いてもらった。残念ながらここの枝垂れ桜はまだ、蕾も堅い状態であった。ここではエドヒガンでも枝垂れる個体と、枝垂れない個体があることを説明し、両方を見てもらった。更に一般の桜の幹には横縞が出るのに対して、エドヒガンでは縦縞が出るのが特徴であることも説明した。

フサザクラの花を撮影

帰途のコンヤの沢にある桜の園では、まだ開花しているサクラが少なかった。それでもいち早く開花したカンヒザクラやコヒガンザクラ、エドヒガンなどを見てもらい、ダンコウバイの花なども観察した。園全体では紅枝垂れ桜の植栽が多かった。「今年は他の地域ではサクラがすでに満開なのに、なぜ静岡の開花が遅いのか？」と参加者からの質問があった。そこで、内野会員が休眠打破なども踏まえた開花のしくみを話し、単純ではない温度の影響について解説をした。

コンヤ沢の桜の園

本日の最後の観察地となった郷島の浅間神社では、サクラではなく巨木を訪ねた。参加者は静岡市一番のクスノキの岩をも思わせる巨大な幹に触れ、手に伝わる感触を確かめていた。

今回は途中で雪に見舞われて想定外の寒さに震えたりもしたが、枝垂れ桜もちょうど見頃で皆さん良い思い出となったと思う。帰りのバスの中では、次回、次々回の行事の案内もして、いち早い参加の希望も承った。帰着時間は若干予定より遅れたが、全員が無事に静岡に戻って終わった。

郷島浅間神社のクスの巨木

（記録、中川）